

私の家は図書館からとても近かったこともあり、私はよく図書館へ行っていた。

保育園の時はお迎えの帰りに寄り、母が本を選ぶ間、私は弟と二人で図書館の中を探検していた。

小学校の時は児童館で遊び、帰る時には図書館で母と待ち合わせをして帰った。書店に行けば読みたい本はたくさんある。しかし、そのすべてを買ってもらえることはない。しかし、図書館に行けば好きなだけ借りることができる。

だから図書館に行く時はとてもわくわくしていた。弟と一緒に借りてきて、『ミッケ』や『びよこたん』シリーズで間違い探しやクイズをした。母に寝る前に読んでもらったり、図書館を通しての思い出はたくさんある。

『子ぎつねコンチ』や『サラダとまほうのおみせ』は、母に「また借りるの?」と言われる程だった。結局本は買ってもらい、今でも大事にしてある。年齢が上がる、家族で本を紹介しあったりするのが楽



しかった。

一日図書館員になれた時、カウンターの中央の図書館の景色が新鮮だった。ふだん入れない事務室や書庫で働く、いつもの図書館でいつもと違ったことをする。そのことがとても楽しく、毎年その時期を待ち遠しく思っていた。貸出手続きであわててしまった時は職員の方が助けてくださった。

一日図書館員をやってみて、仕事の大変さを感じたことを覚えている。忙しい司書の方々が合間を縫って一日図書館員の企画を作ってくださったお陰で、図書館を違った角度から見られる、貴重な体験ができた。

特に最近では学習室を使ったり、調べ学習をしている。インターネッ卜での調べ学習も早くて良いが、本の方が確実に量も多いので私はよく利用する。本を読んだり調べたり、わくわくしたり楽しい気持ちにさせてくれる図書館は、私のお気に入り場所だ。

により養成しています。研修は二年単位で初級・中級と行います。研修を修了し活動中の音訳者は現在六十七人です。利用者の方からも西東京市の録音図書は大変聞きやすいと好評です。

**地域・行政資料サービス**

西東京市後期基本計画では、歴史的資料の修復及び保存・活用が図書館の主要事業に位置づけられ、その一環として二十年度は元禄三年田無村御検地帳の修復に取り組みました。修復完了後の三月に、修復に携わった五代目石井三太夫氏を講師に招いて記念講演会と展示会を行いました。展示会は二日間で述べ九十六人、講演会は五十人の参加がありました。

これまで「七冊之内」とある第七冊目のみが修復され市指定文化財となっていました。開扉不可能とされていた六冊分が修復できたことで、解読が可能となり、新たな事実の発見が期待できます。今後は地域の人材を活かして調査・研究に努めます。

このほかに二つの催しを行いました。一つは、十九年度に引き続いて実施した、多摩・島しょ子ども体験塾市町村助成金による「なつかしの田無・保谷写真展」です。八月から十二月にかけて田無庁舎・保谷駅前公民館など五会場で行いました。

もう一つは、二月一日に実施した大人のための講座「西東京市に住んで半

世紀！ここから覗き続けたプランクトンの世界」です。講師は市内在住の小田部家邦氏で、参加者は二十人でした。今後も市内在住者の著作物を収集するとともに講師に招く講座を行う予定です。

地域・行政資料サービスの実績

内 容		18年度	19年度	20年度
蔵書数の推移 (冊)	中央	62,650	65,629	66,741
	他館	16,566	16,156	16,730
	計	79,216	81,785	83,471
利用者数の推移 (人)	大人	1,120	1,431	1,454
	小学生以下	78	96	59
	計	1,198	1,527	1,513
レファレンス利用の推移 (件)	簡易	1,247	1,921	1,711
	探索・調査	86	36	27
	計	1,333	1,957	1,738

**編集後記**

今号は統計を中心に実績を報告しましたが、世代別利用者統計では、意外にも三十〜四十代の利用が多いという結果が出ました。もしかしたら最も知識欲が旺盛になるのはこの世代なのかもしれません。一人でも多くの方の読書欲・知識欲を満たすお手伝いができるよう、今後もさまざまな工夫をしていきたいと思えます。